第94回

事前参加登録制
【開催地】
東北大学
川内北キャンパス
講義棟C棟
【参加登録】
8.05 水
▼
8.26 水

医学教育セミナー & ワークショップ

2026秋
10.10 SAT
▽
10.11 SUN

Seminar（ハイブリッド）

10.10 土
17:15▶18:25

医学教育を支えるお金のリアル―集める・稼ぐ・生かすの実践

横川裕大（東北大学・株式会社CERCIT）、外山由貴・田中淳一（東北大学）

ML

Workshop（対面）

10.10 土
10:00▶13:00
14:00▶17:00

WS-1 10/10(土) 10:00-13:00
次世代CBTのあり方とは：医師国家試験のCBT化を見据えて
中田祐太（公益財団法人日本医療機能評価機構）、淺田義和・松山　泰（自治医科大学）、久保沙織（東北大学）
A

WS-2 10/10(土) 10:00-13:00
医療者教育の実践と研究における文化的レンズの活用
及川沙耶佳（秋田大学）、Maham Stanyon・色摩弥生（福島県立医科大学）、楊　麗栄（八戸学院大学）
R

WS-3 10/10(土) 14:00-17:00
明日から使える話し合い学習法：医療者教育への応用と実践
小松誠和・安永　悟（久留米大学）
TL

WS-4 10/10(土) 14:00-17:00
生成AI・DXで設計する明日からの各分野医学・医療教育
長谷川仁志・及川沙耶佳（秋田大学）、三原　弘（札幌医科大学）、香田将英・小林天美・大西詠子・田中淳一（東北大学）
CD

WS-5 10/10(土) 14:00-17:00
「なんとなく教える」を卒業！医療者のための授業デザイン入門
高田　亮・伊藤智範・相澤　純・野里　同・菊池佑弥（岩手医科大学）、鈴木義彦（プレモ在宅クリニック）他
CD

Workshop（対面）

10.11 日
10:00▶13:00
14:00▶17:00

WS-6 10/11(日) 10:00-13:00
IR実践に活かす生成AI質的分析入門
堀田晶子（帝京大学）、唐牛祐輔（関西医科大学）、佐藤麻紀（愛知医科大学）、恒川幸司（名古屋市立大学）、濵崎景子（長崎大学）、淺田義和（自治医科大学）
R

WS-7 10/11(日) 10:00-13:00
医療者に求められる資質「情報・科学技術を活かす能力」の再考
淺田義和（自治医科大学）、及川沙耶佳（秋田大学）、黄　世捷（聖マリアンナ医科大学）、椎橋実智男（埼玉医科大学）、村岡千種（藤田医科大学）
CD

WS-8 10/11(日) 10:00-13:00
「伝えているのに伝わらない」を乗り越える：フィードバック3.0
山田潤一（湘南鎌倉総合病院）、髙橋亜実（勤医協中央病院）、大塚勇輝（岡山大学）
A

WS-9 10/11(日) 14:00-17:00
脱出ゲーム活用教育の実践と評価：楽しさだけで終わらないために
村岡千種（藤田医科大学）、淺田義和（自治医科大学）、長谷川仁美（昭和薬科大学）、古堅裕章（九州看護福祉大学）
TL

WS-10 10/11(日) 14:00-17:00
医療安全教育におけるシミュレーション：東北の実践と全国への展開
東北シミュレーション医学医療教育研究会主催　長谷川仁志（秋田大学）、福岡裕美子（弘前医療福祉大学）、斎藤拓朗（福島県赤十字血液センター）、田中淳一・西條文人（東北大学）、伊藤智範（岩手医科大学）
ML

＊記号（TL等）はアソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細はMEDCのホームページをご覧ください。

MEDC
MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY

医学教育共同利用拠点
岐阜大学医学教育開発研究センター
MEDC
medc@t.gifu-u.ac.jp

Facebook　X　Instagram

第94回

事前参加登録制
【開催地】
東北大学
川内北キャンパス
講義棟C棟
【参加登録】

8.05（水）
▼
8.26（水）

医学教育セミナー & ワークショップ

2026秋
10.10 SAT
▽
10.11 SUN

MEDTaaalk（オンライン）
10.10（土）
13:00▶16:50
総合司会：川上ちひろ

MEDTaaalk1 13:00-13:50
研修医と指導医との”架け橋”は、どのように築かれるのか
— ERにおける Educational Alliance の質的研究 — R
プレゼンター：吉田暁（新潟大学） ナビゲーター：髙橋美裕希（岐阜大学）

MEDTaaalk2 14:00-14:50
組織を越えた学びは、なぜ続くのか？—有志の勉強会から考えるつながりと矛盾 ML
プレゼンター：川口剛史（聖マリアンナ医科大学） ナビゲーター：髙橋美裕希（岐阜大学）

MEDTaaalk3 15:00-15:50
コンピテンシーを通して考える新人教育と成長 ML
プレゼンター：伊藤亜子（岐阜大学） ナビゲーター：宮地由佳（MEDC）

MEDTaaalk4 16:00-16:50
卒後まもなくの新人医療者が卒前教育に関わる意義とは TL
プレゼンター：有井真弓 ナビゲーター：宮地由佳（MEDC）

MEDTaaalk（オンライン）
10.11（日）
10:00▶13:50
総合司会：川上ちひろ

MEDTaaalk5 10:00-10:50
地域で医学生を育てる医師が、未来の医師に託したいこと CD
プレゼンター：安田恵（福島県立医科大学） ナビゲーター：髙橋美裕希（岐阜大学）

MEDTaaalk6 11:00-11:50
学習者の認識から明らかにする良い指導者像：理学療法教育の文脈から ML
プレゼンター：森井慎一郎（花の丘病院） ナビゲーター：髙橋美裕希（岐阜大学）

MEDTaaalk7 12:00-12:50
「学び合い」はどう生まれるのか
— 模擬患者（SP）養成の研究から考えるSSRL（学習の社会的共同調整）— TL
プレゼンター：早川佳穂（MEDC） ナビゲーター：宮地由佳（MEDC）

MEDTaaalk8 13:00-13:50
コミュニケーションは教わるもの？育つもの？
— 医療者の語りから紐解く職種間コミュニケーションの学び ML
プレゼンター：髙橋美裕希（岐阜大学） ナビゲーター：宮地由佳（MEDC）

次回 【開催日】2027.06.03 ▶ 06.05 【開催地】東京

＊記号（ TL 等）はアソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は MEDC のホームページをご覧ください。

MEDC
MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY
医学教育共同利用拠点
岐阜大学医学教育開発研究センター
MEDC
medc@t.gifu-u.ac.jp

Facebook X Instagram

Seminar　10月10日（土）17:15-18:25

医学教育を支えるお金のリアル―集める・稼ぐ・生かすの実践

横川裕大（東北大学・株式会社CERCIT）、外山由貴・田中淳一（東北大学）

東北大学は本邦初の国際卓越研究大学に認定され、10兆円ファンドによる資金供給という歴史的転換点を迎えている。本セミナーでは、その実態を概説するとともに、持続可能な資金基盤の構築が医学教育の質的向上に不可欠であるとの認識のもと、「医学教育とお金」をテーマに4つの視点から論じる。
具体的には、国際卓越研究大学における学部教育の変化、産学連携を通じた寄付講座の立ち上げと運営実務、医学教育分野におけるベンチャービジネスの事業化、および医学教育コストの構造的把握について、実践者の知見と現況について報告する。
従来の大学財源に依存した教育モデルを超え、資金調達の多様化が医学教育イノベーションを加速させる方向に進む中、現在の現状・実践的知見を共有するとともに、質疑応答を通じて参加者とともに医学教育の未来像を議論する機会としたい。

対象　医療者教育に興味がある人

アソシエイトポイント：ML 0.25

WS-1　10月10日（土）10:00-13:00

次世代CBTのあり方とは：医師国家試験のCBT化を見据えて

中田祐太（公益財団法人日本医療機能評価機構）、淺田義和・松山　泰（自治医科大学）、久保沙織（東北大学）

2026年2月に厚労省にて医師国家試験等改善検討部会が開かれ、医師国家試験のCBT導入について、問題の作成過程や試験実施の方法、合格基準、問題の非公開化などが論点となった。厚労科研河北班では2021年度より医師国家試験のCBT化に関する研究を継続的に実施しており、その結果を踏まえ、特に以下の論点が得られている。
- CBTの定義：単に「紙媒体の試験をPCで行う」ことに留まらない、出題形式や回答形式
- CBTの準備：試験問題のプール化を念頭においた、良質な試験問題を作成するための方策
- CBTの運営：1万人以上を対象とする試験を効果的・効率的に運用するための方式
本ワークショップでは、厚労科研河北班の成果紹介を行った後、医師国家試験のCBT化を見据えた次世代のCBT国家試験のあり方を検討する。さらに、医師のみならずその他の医療系国家試験への展開も見据え、医療者育成に関わる教員に加え、学生や研修医といった受験者に近い立場の者も含めて、幅広い参加者での意見交換を期待したい。

対象　医療系国家試験のCBT化に興味のある医学教育関係者、過去に医師国家試験CBT化のトライアル試験を受けた学生・研修医等、医療者教育に興味がある人

定員　30名

アソシエイトポイント：A 0.25

WS-2　10月10日（土）10:00-13:00

医療者教育の実践と研究における文化的レンズの活用

及川沙耶佳（秋田大学）、Maham Stanyon・色摩弥生（福島県立医科大学）、楊　麗栄（八戸学院大学）

医療者教育に関する概念はしばしば普遍的なものとして扱われますが、実際には言語的・社会的・哲学的文脈の影響を受けます。本ワークショップでは、日本の医療者教育者を対象に、文化的な視点が教育実践および研究デザインの双方にどのような影響を与えているのかについて、特にプロフェッショナリズム、リーダーシップ、コミュニケーションといった点から探求します。
(1)言語的・文化的文脈が、医学教育の研究と実践における意味生成にどのように作用するか
(2)文化的文脈に応じてリーダーシップの特徴はどのように変容するか（デルファイ法を踏まえて）
(3)文化的文脈に位置づけられたプロフェッショナリズムの構成概念をどのように可視化できるか（Q方法論を踏まえて）
本ワークショップは、教育実践と研究方略を架橋し、暗黙の文化的前提を乗り越え、医療者教育における文化的応答性を備えた視座を獲得する新たな試みとなります。

対象　医療者教育に興味があり、文化的な視点がどのように医療者教育や医療者教育研究に寄与するのか、という点に関心がある方

定員　30名

アソシエイトポイント：R 0.25

WS-3　10月10日（土）14:00-17:00

明日から使える話し合い学習法：医療者教育への応用と実践

小松誠和・安永　悟（久留米大学）

医療者教育では学習者の多様な視点を統合する学びが重視されている。協同学習はその促進に有効である。本WSで取り上げる「話し合い学習法」はLTD（Learning through discussion）として知られている協同学習の一技法である。初年次教育や基礎医学から臨床実習までの幅広い医療者教育に活用できる。LTDは効果的な読解法であり対話法である。個人による予習と小グループによるミーティングにより構成されている。両者とも8ステップからなる共通の過程プランに沿って構造化されている。
本WSでは、まず、LTDの概要と実践方法を、協同学習の技法を用いて体験的に学ぶ。そのうえで、医療者教育を想定した指導の要点や実践視点を学ぶ。さらに教育現場における参加者の課題を共有し、LTD導入の工夫について議論する。　本WSにより、参加者が協同学習の価値を理解し、授業にLTDを取り入れる具体的な手がかりを得ることを目的とする。

対象　講義や実習を担当する医師やコメディカル、医療者教育に興味がある人、協同学習に興味がある人

定員　30名～

アソシエイトポイント：TL 0.25

WS-4　10月10日（土）14:00-17:00

生成AI・DXで設計する明日からの各分野医学・医療教育

長谷川仁志・及川沙耶佳（秋田大学）、三原弘（札幌医科大学）、香田将英・小林天美・大西詠子・田中淳一（東北大学）

生成AIやDXの進展は、医学・医療教育に大きな可能性をもたらしています。しかし各分野で「講義・演習・臨床実習・評価のどこで、どのように活用すればよいのか」「アウトカム基盤型の6年間統合教育にどう生かせるのか」と悩む教育者も多いのではないでしょうか。

本ワークショップでは、生成AIを単なる便利なツールではなく、教員および学生の視点から、症候・病態・事例ベースの学びを効果的・効率的に深め、日本の医学教育の課題解決を促す教育改革の“推進役”として活用する視点を紹介します。

前半は、様々な教育場面における国内外の先進事例を共有するインスピレーションセッション、後半は参加者同士のグループワークで、明日から各分野の教育場面で活用できるAI活用例を考えます。

医学教育（基礎医学・臨床医学・社会医学・医療行動科学）の未来を共に明日から創る本セッションに、分野を問わず多くの皆様のご参加をお待ちしております。ぜひお気軽にご参加ください。

対象　明日から生成AI・DX活用医学・医療教育推進を検討している医療者教育に興味がある皆様：初級～中級者）

定員　30～50名以内程度

アソシエイトポイント：CD 0.25

WS-5　10月10日（土）14:00-17:00

「なんとなく教える」を卒業！医療者のための授業デザイン入門

高田　亮・伊藤智範・相澤　純・野里　同・菊池佑弥（岩手医科大学）、鈴木義彦（プレモ在宅クリニック）他

本ワークショップは、日常業務の中で「なんとなく教えている」状態から一歩抜け出し、医療者として「伝わる教育」を実現するための授業デザインの基礎を身につけることを目的としています。医学教育セミナーとワークショップの参加者の多くは、「誰かに何かを教える」役割を担う医療関係者ですが、体系的な指導法を学ぶ機会が限られており、特に初学者の中には教え方の設計に不安を抱えている方も少なくありません。

本ワークショップでは、そのような方々を主な対象とし、インストラクショナルデザイン（Instructional Design: ID）のエッセンスを、講義・事例紹介・個人ワーク・グループワークを通して実践的に学べるよう構成しています。具体的には、学習目標・評価・教え方（方略）という授業づくりの基本的な流れを、ご自身が実際に教えている題材を用いながら段階的にデザインしていきます。

対象　日常業務の中で「誰かに何かを教える」機会を持ちながら、これまで体系的なインストラクショナルデザイン（ID）の考え方に触れる機会がほとんどなかった医療関係者。

定員　30名

アソシエイトポイント：CD 0.25

WS-6　10月11日（日）10:00-13:00

IR実践に活かす生成AI質的分析入門

堀田晶子（帝京大学）、唐牛祐輔（関西医科大学）、佐藤麻紀（愛知医科大学）、恒川幸司（名古屋市立大学）、濵﨑景子（長崎大学）、淺田義和（自治医科大学）

Institutional research（IR）が広く普及するのに伴い、IRが対象とする分析の範囲も数値やカテゴリカルデータ等の量的データから、アンケート自由記載等の質的データにまで拡大しつつある。しかし、その解析方法は量的データほどには確立されておらず、手探りで解析を行っているのが現状と思われる。

質的データの解析手法として、テキストマイニングや、質的研究の手法である内容分析、主題分析等の研究手法の応用が試みられているが、近年急速に発展している生成AIは、質的データ解析に革命をもたらす可能性を秘めている。

このWSでは、質的データを生成AIで実際に解析し、手法の修得を目指すとともに、その特性について議論を行う。この企画を通して、IR、各種評価への質的データ活用に関して、生成AIをいかに有効利用し成果を出すかについて、理解が深まれば幸いである。

※事前アンケートを行います　※PCを使用します

対象　自由記述等の質的データを、IR／教育プログラム評価／授業改善等に活用したいと考えている教育職、事務職員の方 ※これから活用したいという初心者の方歓迎

定員　30名

アソシエイトポイント：R 0.25

WS-7　10月11日（日）10:00-13:00

医療者に求められる資質「情報・科学技術を活かす能力」の再考

淺田義和（自治医科大学）、及川沙耶佳（秋田大学）、黄　世捷（聖マリアンナ医科大学）、椎橋実智男（埼玉医科大学）、村岡千種（藤田医科大学）

令和4年に医学教育モデル・コア・カリキュラム（以下コアカリ）が改訂された。この改訂では、医師に求められる資質・能力も見直され、新たに「情報・科学技術を活かす能力（以下IT能力）」が加わった。しかし、新たな項目であるがゆえに、その教育実践には、各大学での試行錯誤が必要となっている。また、ChatGPTの公開が改訂原案の完成後であったこともあり、生成AIに関連する内容については十分な議論がなされていない。さらに、令和7年度より大学入試共通テスト「情報」が開始となったが、これが学生の前提知識の変化に与える影響も不透明である。

以上を踏まえ、本WSではIT能力の教育に関する現状を整理し、将来像を議論する。具体的には、（1）各大学での教育実践状況、（2）生成AI活用に関する課題と展望、等を扱う。本WSの成果が現場の教育改善のみならず、次期コアカリ改訂に寄与することも期待する。

対象　情報・科学技術を活かす能力」の教育に携わる人，生成AIに関する教育に興味関心のある人，医療者教育に興味がある人

定員　30名

アソシエイトポイント：CD 0.25

WS-8　10月11日（日）10:00-13:00

伝えているのに伝わらない」を乗り越える：フィードバック3.0

山田潤一（湘南鎌倉総合病院）、髙橋亜実（勤医協中央病院）、大塚勇輝（岡山大学）

「フィードバック（FB）を学んでも、現実は必ずしも上手くはいかない」。そのように感じたことはありませんか？
本WSは、FBのスキルを身につけることにとどまらず、参加者の皆様の教育経験と私たちが持つNeer-peerの視点を掛け合わせることで、FBの真の基盤を共に探求する場です。FBの手法（1.0）や関係性（2.0）について振り返りつつ、学習者の「FBリテラシー（3.0）」という視点から、指導と学習の関係を再設計していきます。ネガティブFBはやりづらい、パワハラと言われないか不安、Z世代は何を考えているか分からない・・・そんな悩みを抱える指導者が「真に腹落ち」し、お互いが前向きに取り組めるFBのあり方を、私たちRaTs（Residents as Teachers）と一緒に考えてみませんか？

対象　主に医療現場で研修医・医学生教育を行う機会のある方。その他、本テーマに興味のあるすべての職種の方（研修医・学生さんも歓迎）

定員　30名　　アソシエイトポイント：A 0.25

WS-9　10月11日（日）14:00-17:00

脱出ゲーム活用教育の実践と評価：楽しさだけで終わらないために

村岡千種（藤田医科大学）、淺田義和（自治医科大学）、長谷川仁美（昭和薬科大学）、古堅裕章（九州看護福祉大学）

脱出ゲーム（Escape Room、以下ER）を活用した教育は、学習者の動機づけに有用です。しかし、一方で教育手法として考えた場合は、設定された学修目標への到達を正しく「評価」できるか否かという観点が重要となります。今回は、短めのERを体験していただいた後、以下のような観点で議論を行います。
・ERのプログラム評価：医療における知識・技能・態度について、ERを通じて何らかの新しい「学び」が得られそうか
・ERと評価（1）：（a）で話題となった「学び」は、体験したERそのままで評価可能か
・ERと評価（2）：どのような評価方法であれば、今回のERで活用可能となるか
・ERと学修目標：そもそもどのような学修目標ならば、ERが評価として有効か
単にゲームとして「楽しい」だけでなく、教育手法の一つとしてERを扱う場合の利点や欠点、可能性や限界などを参加者の方々と整理できれば幸いです。

対象　ゲーム活用教育に興味がある人 - 医療者教育に興味がある人

定員　32名　　アソシエイトポイント：TL 0.25

WS-10　10月11日（日）14:00-17:00

医療安全教育におけるシミュレーション：東北の実践と全国への展開

東北シミュレーション研究会　長谷川仁志（秋田大学）、福岡裕美子（弘前医療福祉大学）、斎藤拓朗（福島県立医科大学）、田中淳一・西條文人（東北大学）、伊藤智範（岩手医科大学）

医療安全向上におけるシミュレーション教育の組織的実装を学ぶ参加型ワークショップです。東北地域の大学病院・地域病院・多職種による先進的な取り組みを紹介し、限られた資源での工夫や組織への定着プロセスを共有します。グループワークでは施設規模や職種を超えて、導入時の課題、医療安全との効果的な統合、評価方法について議論し、実践的な解決策を検討します。初心者から経験者まで参加しやすい設計としており、事例発表者とのパネルディスカッションを通じて、地域を超えた連携可能性と継続的な教育体制構築を展望します。

対象　医療安全教育に興味のある医療従事者

定員　30名程度　　アソシエイトポイント：ML 0.25

MEDTaaalk1　10月10日（土）13:00-13:50

研修医と指導医との”架け橋”は、どのように築かれるのか
― ERにおける Educational Alliance の質的研究 ―

プレゼンター：吉田暁（新潟大学）　ナビゲーター：髙橋美裕希（岐阜大学）

ERは、学びの機会が豊富である一方、時間的制約や高い緊急性の中で教育を行わなければならない過酷な学習環境ともいえます。このような環境では、指導のテクニックだけでなく、研修医と指導医との良好な関係性の構築が不可欠であると考えられます。本研究では、Educational Alliancを理論的枠組みとして、研修医へのインタビューによる質的研究を実施しました。研修医の視点から、指導医とのEducational Allianceがどのようなプロセスで形成され、ときに揺らぎながらも、学びや成長へとつながっていくのかについて、研究の成果をもとに紹介いたします。

アソシエイトポイント：R 0.125

MEDTaaalk2　10月10日（土）14:00-14:50

組織を越えた学びは、なぜ続くのか？―有志の勉強会から考えるつながりと矛盾

プレゼンター：川口剛史（聖マリアンナ医科大学）　ナビゲーター：髙橋美裕希（岐阜大学）

医療者の継続的能力開発（CPD）は、所属組織内の研修だけで十分に支えられるのでしょうか。本発表では、有志の勉強会など、正規の教育機関や研修制度の外で組織される非公式Special Interest Group（SIG）活動に着目し、日本の救急医を対象とした質的研究をもとに、多忙な医療者がなぜこうした活動に参加し、長く関わり続けるのかを紹介します。専門職として成長したいという思い、医療をよりよくしたいという目標や展望、心理的に安全で多様なつながり、そして「相互支援」と「社会貢献」の間に生じる矛盾を乗り越える過程から得られる学びを、CPDにどのように生かせるのか、皆さんの経験も交えながら考えます。

アソシエイトポイント：ML 0.125

MEDTaaalk3　10月10日（土）15:00-15:50

コンピテンシーを通して考える新人教育と成長

プレゼンター：伊藤亜子（岐阜大学）　ナビゲーター：宮地由佳（MEDC）

現代の医療現場では，幅広い専門知識や高度な技術だけでなく，責任感や倫理観，協働性などが求められています。新人教育においても，自立した医療専門職として業務を遂行するための能力評価が求められており，その手法の一つとしてコンピテンシーを取り入れた教育が注目されています。本セッションでは，新人職員への質的調査から見えてきた学びのプロセスとコンピテンシー形成における臨床現場での経験学習の役割について紹介します。また，知識や技術だけでは捉えきれない成長をどのように支援し，評価していくべきかについて，参加者とともに考えたいと思います。

アソシエイトポイント：ML 0.125

MEDTaaalk4　10月10日（土）16:00-16:50

卒後まもなくの新人医療者が卒前教育に関わる意義とは

プレゼンター：有井真弓　ナビゲーター：宮地由佳（MEDC）

基礎教育と現場教育の乖離を埋める手法として、医療者教育学で注目されているのが「ニアピア・ラーニング」。これは世代の近い先輩が指導役となり、対話を通じて知識の伝達を超えた協働的経験をする手法です。本セミナーでは歯科衛生士の事例を基に、職種を問わず「卒前の後輩育成」に関わる意義を考えます。後輩との関わりは、相手の成長だけでなく、自身の指導概念の発展や職場での役割認識のアップデートをもたらします。ご自身の教育経験を振り返り、自らの成長を実感できる対話の場になれば幸いです。

アソシエイトポイント：TL 0.125

MEDTaaalk（オンライン）　総合司会：川上ちひろ（MEDC）　10月11日（日）10:00-13:50

MEDTaaalk5　10月11日（日）10:00-10:50

地域で医学生を育てる医師が、未来の医師に託したいこと

プレゼンター：安田恵（福島県立医科大学）　ナビゲーター：髙橋美裕希（岐阜大学）

地域で医学生を育てる医師は、学生に何を伝え、何を育てようとしているのでしょうか。地域で医学生を受け入れている医師へのインタビューを通して見えてきたのは、知識や技術だけではなく、患者さんの暮らしや地域を理解する姿勢、多様な人と協働する力、そして地域への愛着など、地域だからこそ育まれる資質・能力でした。その背景には、「地域を担う医師を育てたい」「地域の魅力を知ってほしい」という先生方の熱い思いがありました。本セッションでは、その研究をご紹介しながら、地域医療教育で本当に大切にしたいことや、地域で学ぶことの価値について、皆さんと一緒に地域医療教育のこれからを考えてみたいと思います。

アソシエイトポイント：CD 0.125

MEDTaaalk6　10月11日（日）11:00-11:50

学習者の認識から明らかにする良い指導者像：理学療法教育の文脈から

プレゼンター：森井慎一郎（花の丘病院）　ナビゲーター：髙橋美裕希（岐阜大学）

さまざまな医療者教育分野で、指導者のコンピテンシー研究が活発に進み、指導者育成に資する知見が蓄積されつつある。一方で、教育が行われる文脈の違いや指導者・学習者の認識に差があるため、指導者のコンピテンシーを考えるうえでは、各職種の領域固有性を考慮する必要性がある。今回は理学療法教育での研究を基に、あらゆる医療職に通じる「良い指導者像」を皆様と模索したい。分析から見えた共通の課題を共有し、職種の壁を越えて指導のあり方を議論できれば幸いである。

アソシエイトポイント：ML 0.125

MEDTaaalk7　10月11日（日）12:00-12:50

「学び合い」はどう生まれるのか
― 模擬患者（SP）養成の研究から考えるSSRL（学習の社会的共同調整）―

プレゼンター：早川佳穂（MEDC）　ナビゲーター：宮地由佳（MEDC）

医療者教育では「協働して学ぶ」ことが重視されていますが、学習者同士の学び合いは、ただ集まるだけで自然に生まれるものではありません。今回は、Socially Shared Regulation of Learning（SSRL：学習の社会的共同調整）をキーワードに、協働的な学びがどのように生まれ、教育者がそれをどのように支えられるのかを考えます。模擬患者（SP）を対象としたSP養成に関する研究成果を手がかりに、医学生教育や多職種教育をはじめ、さまざまな教育場面に応用できる実践的なヒントを、参加者の皆さんと共有します。

アソシエイトポイント：TL 0.125

MEDTaaalk8　10月11日（日）13:00-13:50

コミュニケーションは教わるもの？育つもの？
― 医療者の語りから紐解く職種間コミュニケーションの学び

プレゼンター：髙橋美裕希（岐阜大学）　ナビゲーター：宮地由佳（MEDC）

医療現場では、多職種の良好なコミュニケーションが患者さんの安全やより良いケアにつながると言われています。しかし、その力は実際にどのように身についていくのでしょうか。本セッションでは、医師、看護師、臨床検査技師へのインタビューをもとに、経験豊かな医療者が職種間コミュニケーションをどのように学び、捉えるようになったのかを紹介します。現場での観察や対話、協働の経験を通して育まれる学びのプロセスを紐解きながら、多職種連携教育や医療者教育のあり方について考えます。

アソシエイトポイント：ML 0.125

参加登録方法

MEDCホームページよりお申込みください　MEDC

参加登録期間　2026年8月5日（水）～26日（水）

参加を希望される方は、上記期間内に参加登録をお願いします。各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。なお、当日参加は受付いたしません。

参加費　5,000円（学部学生、東海国立大学機構 教職員・大学院生は無料）

開催地　東北大学　川内北キャンパス　講義棟C棟
（〒980-8576 仙台市青葉区川内41）